

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 理学療法学コース】

| 科目名 | ナンバリング | 区分 (必修・選択) | 単位数 | 履修年次 | 開講学期等 |
|--------------|---|----------------|----------------|---|-------|
| 理学療法演習 I-2 | PSP11-003 | 必修 | 1 | 1 | 後期 |
| 担当教員 | 研究室 | 電子メール ID | オフィスアワー | | |
| 坂本 祐太 他 | D310 | y.sakamoto | 火曜 13:00~14:40 | | |
| 授業の目的・概要 | 理学療法では解剖学、生理学、運動学の基礎医学の知識が必要不可欠である。そこで、理学療法演習 I-2 では、理学療法演習 I-1 で学んだアカデミックスキルを用いることによって、理学療法に必要な基礎医学や疾病への理解、骨、筋の基本的知識を深め、主体的に学修する習慣を身につけること目的とする。 | | | | |
| 授業形式・方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・レポート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input type="checkbox"/> その他 () | | | | |
| 学習上の助言 | 理学療法演習 I-1 で学んだ学習法、授業内外のグループワークや学習が重要となる。また、各専門基礎科目を復習すること。自ら学ぶ姿勢を持ち、発言が苦手な学生もグループへの積極的な貢献を行うことを推奨する。授業内では完結しないため、自主学修する機会を積極的に設けること。 | | | | |
| 教科書 | 機能解剖と触診/工藤 慎太郎/羊土社/2019 | | | | |
| 参考書 | 論理的文章作法<帰納法・演繹法・弁証法で書く>、西田みどり、知玄社/2017 基礎運動学第 7 版、中村 隆一 他、医歯薬出版 /2025 アカデミックスキル (授業配布資料) | | | | |
| 外部教材 | | | | | |
| 学生が達成すべき行動目標 | | | | 関連卒業認定・学位授与方針 | |
| ① | 理学療法における基礎医学の意義を理解し、説明できる。 | | | RH(1)~(3) | |
| ② | 論理的思考方法を理解し、理学療法に関連する題材で実践できる。 | | | RH(2)~(3)、HSU(4)~(6) | |
| ③ | 理学療法におけるグループワークの活用方法を理解し、実践できる | | | RH(3)~(6)、HSU(4)~(6) | |
| ④ | 理学療法におけるプレゼンテーションの方法を理解し、実践できる。 | | | RH(3)~(6)、HSU(5)~(6) | |
| ⑤ | 骨・筋の触診技能を習得し、特徴や機能について説明できる。 | | | RH(2)~(3)、HSU(2) | |
| ⑥ | 共同した学習方法を実践できる | | | RH(3)~(6)、HSU(4)~(6) | |
| 授 業 計 画 | | | | | |
| 回 | 学習内容等 | 授業の方法 | 学習課題・学習時間 (時間) | | |
| 1 | 「概要」理学療法演習 I-2 の学修内容について解説する。 | [担当] 坂本祐太 | 講義・演習 | 0 | |
| 2 | 「専門基礎①」理学療法に関連する基礎医学の内容について、グループワークでの討論によって理解を深める。 | [担当] 坂本祐太 他 | 演習 | 基礎医学の知識を用いる課題に対し、グループワークでの討論をする。グループでプレゼンテーションを作成し、発表準備をする。担当教員からの指導を受ける。 | |
| 3 | 「専門基礎②」理学療法に関連する基礎医学の内容について、グループワークでの討論によって理解を深める。 | [担当] 坂本祐太 他 | 演習 | | |
| 4 | 「専門基礎③」理学療法に関連する基礎医学の内容について、グループワークでの討論によって理解を深める。 | [担当] 坂本祐太 他 | 演習 | | |
| 5 | 「専門基礎④」理学療法に関連する基礎医学の内容について、グループワークでの討論によって理解を深める。 | [担当] 坂本祐太 他 | 演習 | | |
| 6 | 「専門基礎⑤」理学療法に関連する基礎医学の内容について、グループワークでの討論によって理解を深める。 | [担当] 坂本祐太 他 | 演習 | | |
| 7 | 「専門基礎⑥」プレゼンテーションをする。 | [担当] 坂本祐太 他 | 演習 | | |
| 8 | 「触診課題」上肢の骨および筋について講義、グループで学習する。 | [担当] 坂本祐太 他 | 講義・演習 | 解剖学、運動学を復習する。骨・筋の名称や部位、運動方向等の運動学の基本的知識の復習をする。触診の練習を行う。 | |
| 9 | 「触診課題」下肢の骨および筋について講義、グループで学習する。 | [担当] 坂本祐太 他 | 講義・演習 | | |
| 10 | 「触診課題」下肢の骨および筋について講義、グループで学習する。 | [担当] 坂本祐太 他 | 講義・演習 | | |
| 11 | 「触診課題」頭部・体幹についてグループ講義、グループで学習する。 | [担当] 坂本祐太 他 | 講義・演習 | | |
| 12 | 「触診課題」触診についてグループで学習する。 | [担当] 坂本祐太 他 | 演習 | | |

【2026 年度/専門科目領域/専門科目群/リハビリテーション学科 理学療法学コース】

| | | | | |
|----|----------------------------|----------------|----|--|
| 13 | 「触診課題」触診についてグループで学習する。 | [担当] 坂本祐太 他 | 演習 | |
| 14 | 「触診課題」触診について実技総復習、実技試験をする。 | [担当] 坂本祐太 他 | 演習 | |
| 15 | 「触診課題」触診について実技総復習、実技試験をする。 | [担当] 坂本祐太 他 | 演習 | |
| 試 | | | | |

| 達成度評価 | | | | | | | |
|------------|-------------|----|------|------|---------|-----|-----|
| 総合評価割合 (%) | | 試験 | レポート | 成果発表 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
| | | 60 | 0 | 40 | 0 | 0 | 100 |
| 総合力指標 | 知識・技術力 | 20 | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 |
| | 思考・推論・創造する力 | 10 | 0 | 10 | 0 | 0 | 20 |
| | 協調性・リーダーシップ | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 5 |
| | 発表・表現伝達する力 | 20 | 0 | 10 | 0 | 0 | 30 |
| | コミュニケーション力 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 5 |
| | 取組みの姿勢・意欲 | 10 | 0 | 5 | 0 | 0 | 15 |
| | 問題を発見・解決する力 | 0 | 0 | 5 | 0 | 0 | 5 |

| 評価のポイント | | | 評価の実施方法と注意点 | フィードバックの方法 |
|---------|------|---|--|---------------|
| 評価方法 | 行動目標 | | | |
| 実技試験 | ① | ✓ | 授業の中で行われる骨・筋の触診を口頭試問、実技試験にて成績判定とする (30%)。 | 必要に応じて、解説を行う。 |
| | ② | ✓ | | |
| | ③ | ✓ | | |
| | ④ | ✓ | | |
| | ⑤ | ✓ | | |
| | ⑥ | ✓ | | |
| 筆記試験 | ① | ✓ | ①論理的思考方法、グループワーク、文章作成方法に関する知識について、②骨筋関節の触診に関する知識について筆記試験を行い、成績判定とする (30%)。 | 必要に応じて、解説を行う。 |
| | ② | | | |
| | ③ | | | |
| | ④ | ✓ | | |
| | ⑤ | ✓ | | |
| | ⑥ | | | |
| 成果発表 | ① | ✓ | 「専門基礎」の発表を評価し、成績判定とする。成績判定には、教員による評価と演習班内の学生同士による評価を用いる。学生同士による評価では、課題への取り組み、発表への参加を評価する (40%) | 必要に応じて、解説を行う。 |
| | ② | ✓ | | |
| | ③ | | | |
| | ④ | ✓ | | |
| | ⑤ | ✓ | | |
| | ⑥ | ✓ | | |

備 考

| | |
|-----------|---|
| 他 担 当 教 員 | 粕山 達也、三科 貴博、関口 賢人、源 裕介、石井 智也、元山 美緒、福田 京佑 |
| 教員の実務経験 | 理学療法士として8年の臨床経験がある。グループワーク中心の授業の主担当を5年間している。 |
| 実践的授業の内容 | アカデミックスキルを用いた実践を行う。前期に学修したグループワーク、思考法、プレゼンテーションスキルを用いて、基礎医学について科目横断的に知識を統合し、演習によって理解を深める。また、部分的には今後学習する運動療法学、病理学、臨床医学についても触れることで能動的学習を経験する。理学療法において必須となる骨、筋の基礎的知識に関する実技をグループで学修することで、理学療法の理解や知識の統合や、チームにおける共同方法を体験する。 |
| そ の 他 | この科目では、多くの授業においてグループ単位での活動をする。授業外での活動が重要になるため、学生間、教員との連絡の際には相手を尊重し、授業内で講義する連絡取り方について理解し、マナーを守ること。PCを使用する場面があるため、準備しておくこと。授業の進行状況により、一部変更される場合がある。 |